



NO. 618  
 発行  
 07・11月11日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 守橋久仁雄  
 編集責任者  
 教宣部

# 早期全面解決を求め 百六十名結集 10/27



## 一〇四七名解雇撤回！ 早期全面解決を求める 新潟県集会開催

国労本部をはじめ函館・音威子府闘争団、全動労争議団らを迎え、十月二十七日県民会館において『一〇四七名解雇撤回！早期全面解決を求める新潟県集会』が開催されました。集会は、県内の支援共闘会議などによる実行委員会が主催、雨降りに

### 一日も早い解決を

もかかわらず百六十名を超える支援の仲間が参加、被解雇者の訴えと合わせ県内の闘いの報告を受けました。不採用事件の一日も早い解決に全力をあげることを確認しました。また集会名で関係機関に対する決議を採択しました。



## 連帯して 原発・港湾の現状 県内の闘い報告



集会は、地本渡部書記が司会進行に当たり、宮下元県評議長の開会挨拶で始まり、主催者を代表して守橋地本執行委員長が挨拶、年末から来春にかけて重要な局面に入る中で一層の支援を訴えました。



県内の闘争報告の中で中越沖地震による柏崎原発の現状について『原発が緊急停止したから安全』と電力会社や国は言うが、実際は冷や汗ものでした。『小手先の修復では運転再開できない』と現地で集会開き運動を強めたい、と生々しい写真をもとに危険な実態が報告されました。



## 要請を上申してきた

### 解決交渉テーブルの設置を 運輸局要請で訴え

県集会の前日26日、北陸信越運輸局に対し、早期解決を求める要請を行いました。この行動には、地方本部はじめ県労連建交労代表と共に函館・音威子府闘争団、全動労争議団の3人参加しました。

闘いの現状報告と闘争団・争議団の訴えに対し、鉄道部片野調査官は『今までも皆さんの要請を上申してきた。3人の訴えも整理して上に上げる』と約束。

また、分割・民営化から20年も経過して、なぜ解決しないのか、一方で24、5兆円の長期債務が3兆円にも膨れあがっている。国策で進めてきた矛盾が解明されなければならない、と指摘に『鉄道部長会議の場などで要請があったことを報告したい』との回答をえました。



# 規制緩和で雇用不安 全港湾から報告

全港湾の仲間から規制緩和による現状が報告されました。

二〇〇〇年十一月から始まった港湾の規制緩和は取扱料金の認可制から届出制への変更でダンピングによる雇用不安、低賃金、労働災害を引き起こしています。

また、免許制から許可制への変更で異業種からの新規参入が可能になり扱い量による港湾格差が広がり、地域への影響が懸念されています。組合としてストで闘ってきた、など報告がありました。

二〇〇〇年十一月から始まった港湾の規制緩和は取扱料金の認可制から届出制への変更でダンピングによる雇用不安、低賃金、労働災害を引き起こしています。



# 何としても解決を 闘争団・争議団の 切実な訴え

続いて各闘争団・争議団が紹介されました。最初に函館闘争団・坂野さんが挨拶し、『裁判の陳述書で二十年前を思い出した。闘いを継続できたのは家族と新潟の仲間の支えと仲間との共通の思いがあったから』と振り返り、故・秋元さんの無念さにも触れながら『何としても年内に解決のメド付けるために頑張る』と決意を表明しました。



音威子府闘争団・関野副団長は『国鉄当時二〇〇〇人いた住民が今は九七六人になった。四十八名の闘争団で協同組合を設立し、羊羹や味噌作りでプール制をとり、月十四万〜十五万円で頑張っている。四者四団体の団結が作られてきた中で三つの要求を掲げ、路頭に迷わない解決めざし頑張る』と力強く挨拶しました。



最後に全動労争議団の末田さんは『たった一枚の紙切れで解雇になった。四者四団体の枠組み、体制で何としても解決したい。裁判か政治解決か二者択一でなく両方ともしっかりと闘い、満足のいく解決を勝ち取る』と訴えました。

続いて本部田中副委員長が不採用



事件の闘いについて情勢報告を行いました。報告では、分割・民営化の狙いは何だったのかをあらためて明らかにし、今表れている重大事故の根底に規制緩和があること、全動労裁判判決を年末に控えていること、さらに四者四団体のしつかりした団結のもとで政治政策、ILO対策を強めることを明らかにし計画されている11・30中央集会の成功を訴えました

## 11・30 中央集会

★20年の節目、総力をあげた闘いで勝利を！『JR不採用差別』全面解決を迫る  
11・30全国集会

★11月30日（金）18時開場  
★日比谷野外音楽堂

